

## 優秀賞

### おちびさんじゃないよ

小豆島町立安田小学校一年 西濱 朝柊

わたしは、からだが小さいです。二つ年上のおにいちゃんは、わたしのことを、

「おい、ちび。」

といっただけのことがあります。そんなときわたしは、

「ちびじゃないよ。あさひだよ。」

といいかえます。わたしには、もうすぐ二さいになるいもうとがいます。五さいも年がちがうのに、たいじゅうはたった四キロしかかわりません。

「小さいのはべつにいやじゃないけれど、いもうとには、ぬかれたくないな。だって、わたし、おねえちゃんだもの。」

ようちえんのころは、たいじゅうがなかなかふえず、おとうさんもおかあ

さんも、

「大じょうぶかな。あさひ大きくなるかな。」

としんぱいしたそうです。

「やっぱり、大きくなりたいな。」

なつ休みにいったとしょかんで、『おちびさんじゃないよ』という本を見つけてました。

ながい足のせがたかい人たちのあいだに、ちょこんと立っている小さな女の子。

「くるくるのかみのけがかわいいな。」

小さな女の子のひょうしのえがとっても気になりました。ちよつとドキドキしました。

「なんだか、わたしみたい。」

せのたかいおとうさんやおかあさん

やおにいちゃんにかこまれたときのわたしとそっくりにおもえたからです。わたしは、本をかりると、すぐによんでみました。

この本は、からだ小さいけれどなんだってできるテンちゃんが、てん校生のマルくんをいじめっこからまもり、マルくんのともだちだい一ごうになるかつこいいおはなしでした。マルくんもテンちゃんとおなじようにからだがとっても小さな男の子です。マルくとテンちゃんのちがうところは、テンちゃんからは小さいけれど、むずかしいもんだいをといたりともだちのことをしんぱいしたりいじめっこにたちむかつていたりしてころはとっても大きくてかつこいいところですよ。

こえが大きいのはわたしとおなじです。わたしは、この本をよむまでは、おとうさんのようにせが大きくて、力もちなところがずつとかつこいいとおもっていました。だから、せがたかくてかつこいい人になりたくってバレエボ

ールもはじめました。けれども、からだ小さくてもテンちゃんのように

ともだちをまもってあげられたら、それもとってもかつこいいとおもいました。テンちゃんはおおものです。

「わたしも、テンちゃんみたいなおもものになりたいな。せをのばすことは、すぐにはできないけれど、おおもものなら、すぐにでもなれるかもしれない。」

わたしは、おおもものになるためさくせんを立てました。名づけて、

「でっかくなるぞうさくせん」

一こまっている人を見つけたら、わたしのとくいな大きなこえで「先生、きて。」とよびます。

二すきまにものが入ってとれないとき、小さなからだをつかってわたしがすぐにとつてあげます。

三むずかしいもんだいも、あきらめずによくかんがえてときます。

四じぶんでできることは、じぶんでします。

五だれにでも、やさしくします。

わたしは、いやなことがあつたらすぐになみだがでていたけれど、テンちゃんの本をよんで、でっかくなるぞう

さくせんを立てて、おともだちにやさしくしていたら、なぜかあまりなくなりました。じぶんの気もちを大きなこえでいつていたら、なぜか、すつきりするようになりました。

「からだ小さくたって、せがひくくたって、たいじゅうがかるかつて、わたしは、おちびさんじゃないよ。

わたしの名まえは、せかい中の人にあたたかいひかりをとどけるあさ日とおなじ名まえ。むちゃくちゃ大きいでしょ。せかいに一つしかない、たいようのあさのひかり、すてきでしょ。」

たいようのひかりだから、とってもあたたかいはずですよ。わたしは、『おちびさんじゃないよ』のマルちゃんに出あって、大きな女の子になれたような気がします。ところが大きいすてきな女の子マルちゃん。わたしも、マルちゃんにまけないくらいこころが大きいあたたかな人にな

りたいです。だから、これから、ともだちにやさしくしていきます。

だって、わたし、

「あさひだもん。おちびさんじゃないよ。たいようみたいなのかほかのあさひだよ。」